



学校だより 3月号

市田っ子

令和4年3月23日発行
熊谷市立市田小学校

花と笑顔とあいさつ「ありがとう」いっぱいの学校

市田小HP <http://www.ichida.ed.jp/>

花にいろいろな色や形がある理由、人に個性が必要な理由

昨年7月、「花の種類はどれくらいあると思いますか?」と、全校(放送)朝会で子供たちにお話をしました。世界中には、約20万種の花(の咲く植物)があるそうです。また、日本の花の種類をひまわりと百日草(共にキク科)、キュウリとヘチマ(共にウリ科)など、似ている花同士をグループ化すると、155種類にまとまるそうです。今の季節、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、カワヅサクラ等々、約200種類ある桜はバラ科でまとめられます。どの種類の桜も、それぞれの花や色や形、そして匂い、また咲く時期や場所で、私たちの心を和ませてくれます。

ところで植物(花)は、受粉することでたねをつくり、次の世代へ命をつなぎます。植物は自分では動けないので(自分で咲くことはできません)、花粉を運んでもらうために虫の力を借ります。なので、虫に気付いて欲しいために、それぞれの色や形、匂いで存在をアピールします。虫が花に留まるのは植物の受粉を助けるためではなく、そこに虫の食べ物(蜜)があるからです。このため植物は、生育環境や季節、開花時間などにより、花に来る虫の種類が変わるため、花の色や形、匂いを蜜や花粉など得やすいように進化してきました。

「種の起源」で有名なダーウィンは、「アンブレカム・セスキペダレ」という蘭の仲間の研究をしたところ、花の後ろから約30cm垂れ下がる「距(きょ)」という器官の先の蜜を吸うことができる口吻(こうぶん:蜜を吸うときに使うストロー状の器官)をもつ虫がいると予想しました(1862年)。当時、そんなに長い口吻を持つ虫の存在は信じられませんでした。ダーウィンの死後(1903年)に、マダガスカル島で「キサントパンスズメガ」という、長さ22cmの口吻を持つ蛾が発見され、ダーウィンの予言は見事的中し、世界中を驚かせました。

「アンブレカム・セスキペダレ」と「キサントパンスズメガ」は共存の関係にあり、キサントパンスズメガにとっては、他の虫と競争することなくアンブレカム・セスキペダレの蜜を吸うことができます。また、アンブレカム・セスキペダレの「距」約30cmと、キサントパンスズメガの口吻(約22cm)では、蜜を吸うことができないと考えますが、「距」に比べ若干短い「口吻」のため、蜜を吸い取る際にキサントパンスズメガの体に花粉が着くこと、短いのが故にすべての蜜を吸い取ることなく(おなかいっぱいにならない)、次の蘭の蜜を吸うため、次々と花を替え、受粉が繰り返されることとなります。また逆に、口吻が長いと花粉が体につかず、蜜も全部吸われることとなります。連鎖の観点からすると、全部吸われ受粉が起きないとアンブレカム・セスキペダレは絶滅し、結果、キサントパンスズメガは食料がなくなり、やはり絶滅をたどります。お互いが必然の関係で進化、共存してきたのです。

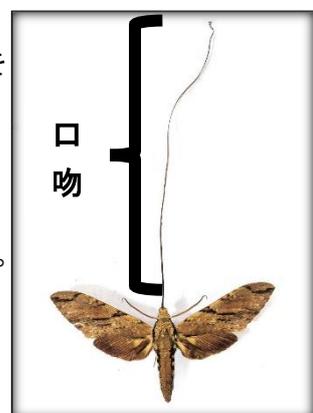
長くなりましたが、1、2、3、4、5年生のみなさん、6年生のみなさん、進級、進学おめでとうございます。

世界にたった一人、かけがえのないあなたへ、あなたの代わりはいません。成長には時間が必要です。頼る人が必要です。そして、必ずあなたの成長、存在を見守ってくれる人がいます。

「自分らしく」「自分が自分であるために」、自分色で輝く、寛容な人になってください。

保護者の皆様、お子様の進級、進学おめでとうございます。また日ごろより、本校教育活動へのご理解、ご支援ありがとうございました。

今年度も市田小の子供たち、一人一人が成長した1年となりました。



6年生 修学旅行 ～鎌倉殿の22人（6年児童数）～

3月11日（金）に6年生が修学旅行に行ってきました。まん延防止等重点措置期間での実施となったため、感染症対策を十分に行った上での実施となりました。鎌倉では鶴岡八幡宮を参拝し、小町通りを班別行動で散策。高德院では大仏を拝見し、江ノ島水族館でイルカショーを観覧しました。どの子どもこの日を楽しみにし、素敵な笑顔で過ごしていました。天気もよく、最高の一日となりました。

学校へ帰った後も、保護者の方に協力していただき、肝試しを行いました。暗闇の学校に「キャー」という悲鳴が轟きました。

その後、キッチンカーのタコライスやクレープを食べて、解散となりました。密度の濃い思い出に残る長い長い一日でした。今回は特集号として下記に写真をたくさん載せますので、ご覧ください。

